

兵庫県のヒメドロムシに関する知見

藤原 淳一

筆者は林・島田(2006)による採集記録に触発され、2006年と2007年にヒメドロムシ、特にアヤスジミドロムシの生息を確認するために兵庫県で調査を行った。日程の都合上数ヶ所でのしか調査を行うことができなかったが、兵庫県立人と自然の博物館で行った標本調査を含めいくつかの知見を得ることができた。兵庫県におけるヒメドロムシ相を解明する上で参考となる資料の一つになると考えここに報告する。

調査地点

今回の調査地について、地名、河川名、メッシュコードの順に記述する。

1. 篠山市草野 武庫川(細田橋付近) 5235-3183
本調査地付近の底質は砂礫であり、トゲナベブタムシの生息地として知られている(石田・吉安, 2004)。流れが緩やかな場所では砂の間に泥が溜まっていた。
2. 丹波市氷上町谷村 加古川(錦橋付近) 5235-5062
流れは速く、河床に打ち込まれた杭や根際からヒメドロムシを採集することができた。
3. 丹波市氷上町棧敷 加古川(天神橋付近) 5235-6023
流れは非常に速く、ヤナギが数本生えている。
4. 宍粟市波賀町赤西溪谷 赤西川 5234-6450, 5234-6359
赤西川の本流および支流で調査を行った。夜には本流の河原で灯火採集を行った。

野外調査および標本調査で確認した記録

本記録には今回の調査で採集した個体および兵庫県立人と自然の博物館に収蔵されている標本を記した。記録は確認個体数、採集地、採集日、採集者の順で記した。採集記録の採集者はすべて筆者であり、標本のほとんどは筆者が保管している。標本記録は原則として新しい市町村に変換せず、データラベルに書かれている通りに記した。

1. ハバビロドロムシ *Dryopomorphus extraneus* Hinton
[採集] 4exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007
赤西川支流の石の間に堆積した落葉の中から採集した。本流からは採集できなかった。
2. ヒメハバビロドロムシ *Dryopomorphus nakanei* Nomura
[採集] 2exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007
前種と同じ場所で採集した。前種と同じく本流では採集でき

なかった。

3. イブシアシナガミドロムシ *Stenelmis nipponica* Nomura
[採集] 1ex., 篠山市草野, 23.VIII.2006; 2exs., 丹波市氷上町谷村, 30.VIII.2007; 23exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007, LT
[標本] 1ex., 兵庫県多紀郡篠山町藤阪, 1997. VII. 20, 大塚剛二; 1ex., 兵庫県多紀郡篠山町藤阪, 1997. VIII. 13, 大塚剛二
赤西溪谷で行った灯火採集では非常に多くの個体が飛来した。また、篠山市草野では植物の根際から採集した。
4. アシナガミドロムシ *Stenelmis vulgaris* Nomura
[採集] 2exs., 丹波市氷上町谷村, 30.VIII.2007; 2exs., 丹波市氷上町棧敷, 30.VIII.2007; 2exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007, LT
5. ミヤモトアシナガドロムシ *Stenelmis miyamotoi* Nomura & Nakane
[採集] 6exs., 篠山市草野, 23.VIII.2006; 8exs., 丹波市氷上町谷村, 30.VIII.2007
流木および植物の根際から採集した。兵庫県における本種の記録は1976年以前の古い記録がある(高橋, 1997)がその後の追加記録はないようである。
6. ゴトウミドロムシ *Ordobrevia gotoi* Nomura
[採集] 8exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007
赤西川本流のやや流れが緩やかな瀬から採集した。ハバビロドロムシやヒメハバビロドロムシを採集した支流からは得られなかった。
7. アカモンミドロムシ *Ordobrevia maculate* (Nomura)
[採集] 4exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007
赤西川の本流および支流で得られた。ハバビロドロムシのように落葉中からではなく石を起こすことにより得られた。
8. キスジミドロムシ *Ordobrevia foveicollis* (Schönfeldt)
[標本] 3exs., Kanzaki Amagasaki City (Pref. Hyogo), VII. 1952, ISABURO KONO; 4exs., Funasaka-gawa nr. Dōjō Kobe City, M. OHKURA, 13. VIII. 1961; 1ex., 兵庫県西宮市大垣内, 96. VII. 17, 吉田浩史; 兵庫県朝来郡生野町直谷溪谷, 98. VII. 17, 中峰空
[採集] 4exs., 丹波市氷上町棧敷, 30.VIII.2007; 13exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007, LT

9. ヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp

〔採集〕 1ex., 篠山市草野, 23. VIII. 2006; 1ex., 丹波市氷上町谷村, 30.VIII.2007

川に沈んだ流木および杭から採集した。本種は植物の根際(緒方・中島, 2006; 吉岡, 2007)や緩流部に沈む石(藤本・上手, 2000)からも得られているが、今回の調査では木質以外からは発見できなかった。兵庫県からは山本(1958)がツヤケンドロムシとして記録して以来記録がないようである。

10. アヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura)

〔標本〕 6exs., Hyogo.(Tamba), Kaibara, 10. VII. 1949, Y. M. Yamamoto(図1); 4exs., Hyogo.(Tamba), Kaibara, 1-8. IX. 1949, Y. M. Yamamoto(図2)

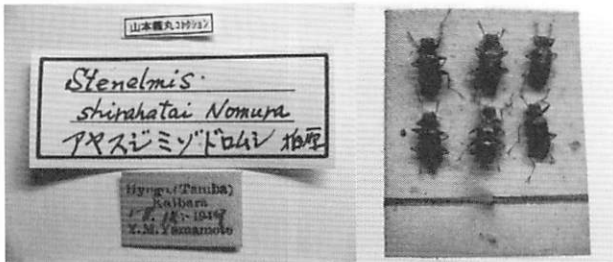


図1 山本義丸氏手書きのラベル 図2 アヤスジミゾドロムシ

本種は白畑幸太郎氏によって山形県で採集された個体をタイプとして1958年に記載された種である(高橋, 1996)が、林・島田(2006)によって島根県の斐伊川から報告されるまで、近年の記録は愛知県の矢作川(吉富, 1996)からしかなく、ヒメドロムシ科の中で稀な種の一つである。兵庫県におけるアヤスジミゾドロムシの記録は山本(1958)が「*Stenelmis* sp. キアシホソドロムシ(新称) *S. yamamotoi* Kamiyaとして記載される予定。柏原, 4.vii.1949 (一部抜粋)」と報告したのがもっとも古い。柏原とは現在の兵庫県丹波市柏原町である。

11. クロサワドロムシ *Neoriohelmis kurosawai* Nomura

〔標本〕 1ex., 兵庫県波賀町赤西溪谷, 1990. VI. 17, 池田隆直

赤西溪谷で8月に調査を行ったが本種を採集することはできなかった。

12. スネアカヒメドロムシの近似種 *Optioservus* sp. (図3)

〔採集〕 13exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007

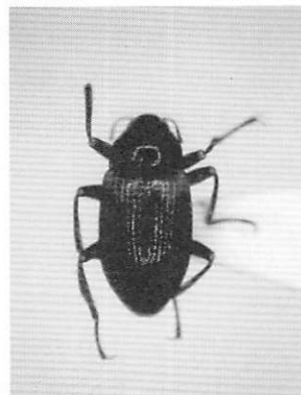


図3 スネアカヒメドロムシの近似種

スネアカヒメドロムシに似るが、脚は赤くないなどの違いが

ある。山陰地方から記録されているセアカヒメドロムシおよびスネアカヒメドロムシの近似種(林・門脇, 2007; 吉岡, 2007)とは別種である。

13. ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura

〔採集〕 3exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007

14. アワツヤドロムシ *Zaitzevia awana* (Kôno)

〔採集〕 6exs., 丹波市氷上町谷村, 30.VIII.2007; 24exs., 丹波市氷上町棧敷, 30.VIII.2007; 1ex., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007, LT

〔標本〕 3exs., Funasaka-gawa nr. Dôjô Kobe City, 13. VIII. 1961, M. OHKURA

15. ミゾツヤドロムシ *Zaitzevia revalis* Nomura

〔採集〕 24exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷, 6.VIII.2007; 9exs., 同, LT

兵庫県のヒメドロムシ科について

兵庫県におけるヒメドロムシ科は信本(2000)によって11属21種が報告されている。その後、Yoshitomi and Satô(2005)がOnzui-keikoku, Haga-chô(宍粟市音水溪谷)からヒメハバビドロムシを報告しているため、これまでに22種の記録がある。筆者も同じく宍粟市の赤西溪谷において細流中の石に引っ掛かった落葉からヒメハバビドロムシを採集している。同所的にハバビドロムシも生息しておりヒメハバビドロムシより多く見られた。

ハガマルヒメドロムシ *Optioservus hagai* Nomura、セアカヒメドロムシ *Optioservus maculatus* Nomura、鳥取県の大山から記録されているツブスジドロムシ *Paramacronychus granulatus* Nomura、ヨコミゾドロムシと同様の環境で得られているホソヨコミゾドロムシ *Leptelmis parallela* Nomuraは兵庫県から記録されていないので、今後の調査により発見される可能性があると思われる。また、元来新潟県しか記録のなかったセマルヒメドロムシ *Orientelmis parvula* (Nomura & Baba)も福岡県(緒方・中島, 2006)、山口県(中島, 2007)や広島県(秋山, 2005)から報告されていることから兵庫県にも分布している可能性が高い。

丹波市氷上町棧敷の調査地点の淵にはヤナギが生えていた。流れが非常に速いため近づくことができず精査できなかったが、島根県の斐伊川における調査から林(2007)はヤナギ類を由来とする木質物がアヤスジミゾドロムシを初めとする下流域のヒメドロムシ類を支えていると示唆しており、本調査地付近にアヤスジミゾドロムシが生息している可能性は十分に考えられる。

ヒメドロムシ類の分布調査は各地で行われてきている(守屋, 1997; 吉富ほか, 1999; 林・島田, 2006, 緒方・中島, 2006, 新井, 2007など)。兵庫県においても信本(2000)によって円山川水系を中心に分布調査が行われている。しかし、調査されていない地域が多く、県内の調査は十分とは言えない。播磨地方など調査があまり行われていない地域での調査が進むと先に述べたような県内で記録されていない種が確認されるものと思われる。今後の調査が期待される。

兵庫県産ヒメドロムシ科仮目録(2008)

- ハバビドロムシ *Dryopomorphus extraneus* Hinton
 ヒメハバビドロムシ *Dryopomorphus nakanei* Nomura
 イブシアシナガミゾドロムシ *Stenelmis nipponica* Nomura
 アシナガミゾドロムシ *Stenelmis vulgaris* Nomura
 ミヤモトアシナガドロムシ *Stenelmis miyamotoi* Nomura & Nakane
 ゴトウミゾドロムシ *Ordobrevia gotoi* Nomura
 アカモンミゾドロムシ *Ordobrevia maculate* (Nomura)
 キスジミドロムシ *Ordobrevia foveicollis* (Schönfeldt)
 ヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp
 アヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (Nomura)
 クロサワドロムシ *Neoriorhynchus laurosawai* Nomura
 スネアカヒメドロムシ *Optioservus variabilis* Nomura
 ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura
 ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* Nomura
 キベリナガアシドロムシ *Grouvellinus marginatus* (Kôno)
 ツヤナガアシドロムシ *Grouvellinus nitidus* Nomura
 ホソヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria gotoi* (Nomura)
 マルヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria ovata* (Nomura)
 ヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria brevis* (Nomura)
 アワツヤドロムシ *Zaitzevia awana* (Kôno)
 ツヤドロムシ *Zaitzevia nitida* Nomura
 ミゾツヤドロムシ *Zaitzevia revalis* Nomura

謝辞

ホシザキグリーン財団の林成多博士には多くのご指導を賜った。兵庫県立人と自然の博物館の沢田佳久博士には収蔵標本の検討に際し便宜を図っていただいた。名古屋市の上手雄貴氏にはスネアカヒメドロムシに関する情報をいただいた。兵庫県立大学の山下大輔氏には野外調査において協力していただいた。これらの方々には厚く御礼申し上げます。

文献

- 秋山美文(2005) 広島県のヒメドロムシ科。比和科学博物館研究報告, (44):205-219
 新井浩二(2007) 埼玉県のヒメドロムシ類。寄せ蛾記, (125):1-21
 藤本博文・上手雄貴(2003) ヨコミゾドロムシ香川県の記録。甲虫ニュース, 144:19-20
 林 成多(2007) 島根県産水生甲虫類の分布と生態。ホシザキグリーン財団研究報告, (10):77-113
 林 成多・門脇久志(2007) 鳥取県大山山麓の河川に生息する水生甲虫類。ホシザキグリーン財団研究報告, (10):149-168
 林 成多・島田 孝(2006) 島根県東部および隠岐諸島のヒメドロムシ類。ホシザキグリーン財団研究報告, (9):127-143
 石田直人・吉安 裕(2004) 近畿地方におけるナベブタムシ属2種(半翅目:ナベブタムシ科)の生活環ならびにそれらの発育と生息環境。昆虫, 7(2):55-68
 守屋博文(1997) 神奈川県産のヒメドロムシ科。神奈川虫報, (117):1-7
 中島 淳(2007) 山口県におけるセマルヒメドロムシの記録。甲虫ニュース, 158:21
 信本 励(2000) 兵庫県のヒメドロムシ科, ドロムシ科目録(第1報)。兵庫陸水生物, (51/52):35-38
 緒方 健・中島 淳(2006) 福岡県のヒメドロムシ。ホシザキグリーン財団研究報告, (9):227-243
 高橋寿郎(1996) アヤスジミゾドロムシ氷上郡柏原に産す。きべりはむし, 24(1):44-45
 高橋寿郎(1997) 兵庫県産水生甲虫目録(2)。きべりはむし, 25(2):23-30
 山本義丸(1958) 兵庫県立柏原高校生物研究会NATURE特別号氷上の自然第3集「兵庫県氷上郡昆虫目録」134p。兵庫県立柏原高等学校生物教室
 吉岡誠人(2007) 飯梨川水系および意宇川水系のヒメドロムシ類。ホシザキグリーン財団研究報告, (10):235-256
 Yoshitomi and Satô(2005) A Revision of the Japanese Species of the Genus *Dryopomorphus*(Coleoptera, Elmidae), Elytra, 33(2):455-473
 吉富博之・白金昌子・疋田直之(1999) 矢作川水系のヒメドロムシ。矢作川研究, (3):95-116
 (FUJIWARA JUN'ICHI 神戸市灘区弓木町2-2
 マウンテンビュー六甲III 101)